

人間または動物または植物の本体またはその一部の保存（食品または食料品の保存 A23）；殺生物剤, 例. 殺菌剤, 殺虫剤または除草剤として（望ましくない生物の殺除あるいは成長または増殖を防止する医療用の製剤, 歯科用の製剤又は化粧品 A61K）；有害生物忌避剤または誘引剤；植物生長調節剤

注

1. このサブクラスは以下のものを包含する：
- ・組成物, 物理的形態, 特定物質の適用方法, あるいは単一化合物又は組成物の使用；
 - ・無脊椎動物, 例. 昆虫, を生殖不能にするための化学不妊剤, それ以外の目的の不妊剤はサブクラス A61K でカバーされる。
2. このサブクラスは, 栄養を与えることによってのみ植物の生長に影響を及ぼす物質, すなわち育成のために通常必要とされる肥料, または植物のミネラル欠乏症を防ぐため, または回復させるために用いる物質, たとえば鉄分の欠乏によるクロロシスを直すために添加する鉄キレートなどは, 包含しない。こうした物質はクラス C05 に分類される。
3. このサブクラスでは, 下記の表現は以下に示す意味で用いる：
- ・”植物生長調節剤”とは, オーキシンのように植物の代謝を化学的に調節して植物を変える物質である。
4. 化合物または合成から成る殺生物剤, 有害生物忌避剤, 有害生物誘引剤または植物生長調節剤活性は, さらにサブクラス A01P にも分類する。
- サブクラス内の索引
- 人間または動物の死骸, または植物の保存 1/00, 3/00
殺生物剤；有害生物忌避剤または誘引剤；植物生長調節剤 ...
物理的形態または適用方法 25/00
有機化合物を含むもの 27/00-57/00, 61/00
無機化合物を含むもの 59/00
微生物, 酵素, 動物または植物の抽出物を含むもの 63/00, 65/00.....

人間または動物または植物の本体, またはそれらの部分の保存

- 1/00 人間または動物またはそれらの各部分の保存
- 1/02 ・生体部分の保存
- 3/00 植物またはそれらの各部分の保存, 例. 蒸発作用の抑制, 葉の外見の改善（収穫した果実または野菜の保存または化学的熟成 A23B7/00）；接木用ワックス
- 3/02 ・切花を化学的方法で新鮮に保つこと [2006. 01]
- 3/04 ・接木用ワックスを用いるもの

殺生物剤；有害生物忌避剤または誘引剤；植物生長調節剤[3]

注

(1) C セクションのタイトルの下の化学元素のグループの定義に注意する。[3]

注

(2) グループ A01N27/00-A01N65/00 までのグループにおいては, ラストブレイス優先ルールが適用される, すなわち各階層レベルにおいて相反する指示がない限り, 活性物質は, 最後の適切な箇所に分類する。[3]

注

(3) 組成物, 即ち 2 以上の活性物質の混合物は, これらの活性物質のうち少なくとも 1 つに当てはまるグループ A01N27/00-A01N65/00 のうちの最後の箇所に分類する。[8]

注

(4) 注 (3) に従った分類によっては特定されないが, それ自体が新規かつ非自明と判断される組成物の一部分も, グループ A01N27/00-A01N65/00 のうちの最後の適切な箇所に分類しなければならない。当該部分は, 単一の成分または組成物自体の何れかであり得る。[8]

注

(5) 注 (3) または注 (4) に従った分類によっては特定されないが, 検索に有用な情報を表していると思われる組成物の一部分も, グループ A01N27/00-A01N65/00 のうちの最後の適切な箇所に分類してもよい。例えばこれは, 分類記号の組合わせを用いた組成物の検索が可能となることが重要であると考えられる場合にあり得る。こうした非義務的分類は, 「付加情報」として付与される。[8]

注

(6) 化合物が互変異性体として存在すると記述されている場合は, その化合物は分類体系の最後の箇所に分類されている方の型の化合物で存在しているものとして分類する。[3]

注

(7) 一般式の択一的に特定された部分により異なったメイングループに含まれる化合物は, 関連するメイングループの各々に分類する。[3]

注

(8) 2 個またはそれ以上の有機化合物間に生成した塩は, 基本のイオンに解離する化合物として分類し, なお他のイオンとなる化合物としても分類する。[3]

注

(9) 有機化合物の塩または金属キレートはその化合物として分類する。[3]

注

(10) このサブクラスにおいては, 栄養要素は活性成分として考えない。[3]

注

(11) 異なった時期に, 順次用いられる種々の物質は, 使用される全物質の混合物として考える。[3]

注

(12) 増強性または賦活性の組成物は, 増強剤または賦活剤が活性成分であるものとして分類する。[3]

注

(13) A01N25/00-A01N65/00 までのグループにおいては、記号 X は窒素、酸素、硫黄またはハロゲンを示し、Y は窒素、酸素または硫黄を示す。原子間の点線は、任意の結合を示す、例. ……は 1 個または 2 個の単結合または 1 個の二重結合を示す。[3]

- 25/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤または植物生長調節剤であって、その形態、またはその不活性成分または使用法に特徴があるもの；活性成分による有害生物以外の生物への悪影響を低減するための物質[2006. 01]
- 101 ・不活性成分により特徴づけられるもの [25/02-25/34 に分類されないもの] [粘着性捕そく剤：薬効増強剤、植物細胞膜透過性への影響物質、保湿成分、肥料を含む農薬：種子コーティング剤中に含まれる農薬] [効力増強が植物への展着性によるもの→25/24]
- 102 ・適用方法により特徴づけられるもの [25/02-25/34 に分類されないもの] [方法のみのもの：適用時期（例. 種子の休眠期）、適用対象部位（例. タバコの下葉に散布）、適用方法（例. 作物傷部に挿入する殺菌方法）に特徴ある方法：農薬による種子コーティング方法：農薬利用率・摂取の増加方法：農薬使用順序に特徴ある方法]
- 25/02 ・担体、希釈剤または溶媒として液体を含むもの[3]
- 25/04 ・分散物またはゲル状物（泡 A01N25/16）[3]
- 101 ・・・・乳状のもの
- 102 ・・・・懸濁状のもの
- 103 ・・・・ペースト状のもの；被膜を形成できるもの
- 25/06 ・・・・エアゾール[3]
- 25/08 ・担体または希釈剤として固体を含むもの[3]
- 25/10 ・・・・高分子化合物[3]
- 25/12 ・粉剤または粒剤（A01N25/26 が優先）[3]
- 101 ・・・・粒子サイズに特徴があるもの
- 25/14 ・・・・水和剤[3]
- 25/16 ・泡[3]
- 25/18 ・遅効性または持続性の蒸気または煙発生組成物[3]
- 101 ・・・・揮散方法；燻蒸方法
- 102 ・・・・揮散性防虫剤〔農薬の加熱を要しないもの〕
- 102 A剤型（平面状のもの→B）、包装、容器
- 102 B・平面状（シート、テープ）
- 102 C物理的形状、構造の特定されていないもの（効力指示→D）
- 102 D効力指示

102 Zその他のもの

- 103 ・・・・燻蒸散：加熱蒸散剤〔農薬を間接加熱して有効成分を気化させるもの〕[燻蒸と燻煙が区別できない場合は間接加熱 25/18, 103, 直接加熱 25/20]
- 103 A物理的加熱
- 103 B化学的加熱
- 103 C物理的形状、構造の特定されていないもの（効力指示→D）
- 103 D効力指示
- 103 Zその他のもの
- 25/20 ・発火性または発熱性の組成物[3]
- 101 ・・・・燻煙剤（燻蒸と燻煙が区別できない場合は間接加熱 25/18, 103, 直接加熱 25/20）
- 25/22 ・活性成分を安定させる成分を含むもの[3]
- 25/24 ・活性成分の固着性を強化する成分を含むもの[3]
- 25/26 ・被覆された微粒子状の形態のもの[3]
- 25/28 ・・・・マイクロカプセル[3]
- 25/30 ・表面活性剤により特徴づけられたもの[3]
- 25/32 ・有害生物以外の有機体に対する活性物質の有害な影響を減少する成分、例. 毒性低下組成物、自壊作用をもつ組成物[3]
- 25/34 ・このメイングループ内の他のいかなるサブグループにも分類されない形態のもの、例. シート状のもの[3]
- A 平面状（シート、テープ）
- B 繊維状
- C 錠剤
- Z その他のもの
- 27/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤または植物生長調節剤であって炭化水素を含むもの[3]
- 29/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であってハロゲン化炭化水素を含むもの[3]
- 29/02 ・非環式化合物または環式脂肪族環系の脂肪族側鎖についたハロゲンを有する化合物[3]
- 29/04 ・ハロゲンが直接炭素環系についたもの[3]
- 29/06 ・・・・ヘキサクロシクロヘキサン[3]
- 29/08 ・・・・ハロゲンが直接多環系についたもの[3]
- 29/10 ・ハロゲンが芳香族環系の脂肪族側鎖についたもの[3]
- 29/12 ・・・・1,1-ジまたは 1,1,1-トリ-ハロ-2-アリアル-エタンまたは-エテンまたはその誘導体、例. DDT[3]
- 31/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって有機酸素または硫黄化合物を含むもの[3]
- 31/02 ・非環式化合物[3]
- 31/04 ・酸素または硫黄が炭素環系の脂肪族側鎖

	についたもの[3]		と 2 個の結合をもちそのうち多くても 1 個がハロゲンとの結合である炭素原子を有する有機化合物を含むもの, 例. アルデヒド基[3]
31/06	・酸素または硫黄が直接環式脂肪族環系についたもの[3]		
31/08	・酸素または硫黄が直接芳香族環系についたもの[3]	35/02	・脂肪族的に結合したアルデヒド, ケト基またはそのチオ類似体を有するもの; その誘導体, 例. アセタール[3]
31/10	・ペンタクロロフェノール[3]	35/04	・芳香族環系に直接ついたアルデヒド, ケト基またはそのチオ類似体を有するもの, 例. アセトフェノン; その誘導体, 例. アセタール[3]
31/12	・ビスクロロフェノール[3]	35/06	・環の一部としてケトまたはチオケト基をもつもの, 例. シクロヘキサノン, キノン; その誘導体, 例. ケタール[3]
31/14	・エーテル[3]	35/08	・異種原子への結合のうち少なくとも 1 つが窒素へのもの[3]
31/16	・2 個またはそれ以上の酸素または硫黄原子が直接同一の芳香族環系についたもの[3]	35/10	・炭素—窒素二重結合を有するもの[3]
33/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって有機窒素化合物を含むもの[3]	37/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 異種原子と 3 個の結合をもちそのうち多くても 2 個がハロゲンとの結合である炭素原子を有する有機化合物を含むもの, 例. カルボン酸 (シクロプロパンカルボン酸またはその誘導体を含むもの, 例. シクロプロパンカルボン酸ニトリル, A01N53/00) [3]
33/02	・アミン; 四級アンモニウム化合物[3]	37/02	・飽和カルボン酸またはそのチオ類似体; その誘導体[3]
33/04	・窒素が直接脂肪族または環式脂肪族の炭素原子についたもの[3]	37/04	・多塩基性のもの[3]
33/06	・窒素が直接芳香族環系についたもの[3]	37/06	・不飽和カルボン酸またはそのチオ類似体; その誘導体[3]
33/08	・酸素または硫黄を含むもの[3]	37/08	・環式脂肪族環にその炭素原子により直接ついているカルボン酸基またはそのチオ類似体を有するもの; その誘導体[3]
33/10	・少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子が直接芳香族環系についたもの[3]	37/10	・芳香族または芳香脂肪族カルボン酸, またはそのチオ類似体; その誘導体[3]
33/12	・四級アンモニウム化合物[3]		
101	・窒素原子が直接脂肪族の炭素原子についたもの		
102	・窒素原子が直接環式脂肪族環系についたもの		
103	・窒素原子が直接芳香族環系についたもの		
33/14	・窒素—ハロゲン結合を有するもの[3]		
33/16	・窒素—酸素結合を有するもの[3]		
33/18	・ニトロ化合物[3]		
A	脂肪族ニトロ化合物		
B	芳香族ニトロ化合物		
Z	その他のもの		
33/20	・酸素または硫黄がニトロ基を有する炭素骨格についたもの[3]		
101	・炭素骨格が脂肪族または環式脂肪族であるもの	37/12	・基 $-\text{CO}-\text{O}-\overset{\textstyle \vdots}{\underset{\textstyle \vdots}{\text{C}}}\equiv\text{C}_n\equiv\overset{\textstyle \vdots}{\underset{\textstyle \vdots}{\text{Y}}}\cdots$ を有するもの, ここで C_n は環を含まない炭素骨格を示す; そのチオ類似体[3]
102	・炭素骨格が芳香族環系を有するもの		
33/22	・少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子と少なくとも 1 個のニトロ基が直接同一の芳香族環系についたもの[3]	37/14	・基 $-\text{CO}-\text{O}-\overset{\textstyle \vdots}{\underset{\textstyle \vdots}{\text{C}}}\equiv\text{X}\cdots$ を有するもの; そのチオ類似体[3]
101	・その酸素または硫黄原子を介して更に直接芳香族環系がついたもの		
33/24	・1 個の酸素原子が窒素原子についたもの[3]	37/16	・基 $-\text{CO}-\text{O}-\overset{\textstyle \vdots}{\underset{\textstyle \vdots}{\text{Y}}}\cdots$ を有するもの; そのチオ類似体[3]
101	・四級アンモニウム基を有するもの	37/18	・基—CO—N<を有するもの, 例. カルボン酸アミドまたはイミド; そのチオ類似体[3]
33/26	・窒素—窒素結合をもつもの, 例. アジド, ジアゾ—アミノ化合物, ジアゾニウム化合物, ヒドラジン誘導体[3]	A	窒素にベンジル基の結合したもの
35/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 異種原子	Z	その他のもの

- 37/20 ・ ・ 基 $\begin{array}{c} \vdots \\ -\text{CO}-\text{N}=\text{C}\equiv\text{C}_n\equiv\text{Y}\vdots \\ \vdots \end{array}$ を有するもの、ここで C_n は環を含まない炭素骨格を示す;そのチオ類似体[3]
- 37/22 ・ ・ 芳香族環系に直接ついた窒素原子, 例. アニリド[3]
- 101 ・ ・ ・ 基 $-\text{CO}-\text{N}<$ の炭素原子が環に直接ついたもの
- 37/24 ・ ・ ・ 同一の芳香族環系に直接ついた少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子を有するもの[3]
- 101 ・ ・ ・ 基 $-\text{CO}-\text{N}<$ の炭素原子が環に直接ついたもの
- 37/26 ・ ・ 基 $\begin{array}{c} \vdots \\ -\text{CO}-\text{N}-\text{C}\equiv\text{X}\vdots \\ \vdots \end{array}$ を有するもの;そのチオ類似体[3]
- 37/28 ・ ・ 基 $\begin{array}{c} \vdots \\ -\text{CO}-\text{N}\equiv\text{X}\vdots \\ \vdots \end{array}$ を有するもの;そのチオ類似体[3]
- 37/30 ・ ・ 基 $\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ -\text{C}\equiv\text{X}\vdots \\ \vdots \end{array}$ および $\begin{array}{c} \vdots \\ -\text{C}\equiv\text{X}\vdots \\ \vdots \end{array}$ を有し, 2 者ともその炭素原子によって同じ炭素骨格に直接ついているもの, 例. $\text{H}_2\text{N}-\text{NH}-\text{CO}-\text{C}_6\text{H}_4-\text{COOCH}_3$; そのチオ類似体[3]
- 37/32 ・ ・ 多塩基性カルボン酸の環状イミドまたはそのチオ類似体[3]
- 101 ・ ・ ・ 環状イミドが 5 員環を形成するもの
- 37/34 ・ ・ ニトリル[3]
- 101 ・ ・ 非環式化合物
- 102 ・ ・ 環式化合物
- 103 ・ ・ ・ シアノ基が環に直接ついたもの
- 104 ・ ・ ・ ・ その環に直接ついたハロゲン原子を有するもの
- 105 ・ ・ ・ ・ その環に直接ついた酸素または硫黄原子を有するもの
- 106 ・ ・ ・ ・ その環に直接ついたハロゲン原子および酸素または硫黄原子を有するもの
- 107 ・ ・ ・ シアノ基が環に直接ついていないもの
- 108 ・ ・ ・ ・ $-\text{N}=\text{C}<$ または $-\text{N}=\text{N}-$ または $-\text{N}<$ 結合を 1 つ以上有するもの
- 109 ・ ・ ・ ・ $-\text{N}=\text{C}<$ または $-\text{N}=\text{N}-$ または $-\text{N}<$ 結合を有しないもの
- 110 ・ ・ ・ ・ $-\text{O}-$ 結合を有するもの
- 37/36 ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボキシル基, そのチオ類似体またはその誘導体を含み, 酸素または硫黄原子が単結合で同一炭素骨格についているもの, この酸素または硫黄

原子はカルボキシル基, チオ類似体またはその誘導体の 1 員ではない, 例. ヒドロキシカルボン酸[3]

- 37/38 ・ ・ 少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子が芳香族環系についたもの[3]
- 37/40 ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボキシル基, チオ類似体またはその誘導体と, 1 個の酸素または硫黄原子とが同一芳香族環系についたもの[3]
- 37/42 ・ 同一炭素骨格内にカルボキシル基, チオ類似体またはその誘導体と, 異種原子と 2 個の結合のみ有しそのうち多くとも 1 個がハロゲンとの結合である炭素原子とを有するもの, 例. ケトカルボン酸[3]
- 37/44 ・ 少なくとも 1 個のカルボキシル基, チオ類似体またはその誘導体を含み窒素原子が単結合または二重結合で同一炭素骨格についているもの, この窒素原子はカルボキシル基の誘導体またはチオ類似体の 1 員ではない, 例. アミノカルボン酸[3]
- 37/46 ・ ・ $\text{N}-$ アシル誘導体[3]
- 37/48 ・ ・ ニトロカルボン酸;その誘導体[3]
- 37/50 ・ ・ 炭素骨格に二重結合している窒素原子[3]

- 37/52 ・ 基 $\begin{array}{c} \vdots \\ \text{X}-\text{C}=\text{N}- \\ \vdots \end{array}$ を有するもの, 例. カルボン酸アミジン[3]

- 39/00 殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 基



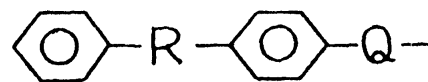
キシ-またはアリールチオ-脂肪族または環式脂肪族化合物を含むもの, 例. フェノキシエチルアミン, フェニルチオアセトニトリル, フェノキシアセトン[3]

A $\text{Ar}-\text{Q}-\text{C}_m\cdots\text{COO}-$

B $\text{Ar}-\text{Q}-\text{C}_m\cdots\text{CON}<$

C $\text{Ar}-\text{Q}-\text{C}_m\cdots\text{CN}$

D



E A-D の 2 つ以上の組合せ

Z そ の 他 の も の 但 し, $\text{Q}: \text{O}, \text{SR}: \text{Q}, \text{CmH}_{2m}, \text{QCmH}_{2m}, m \geq 1$

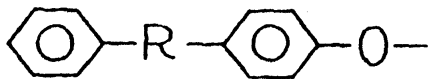
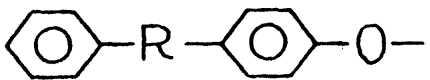
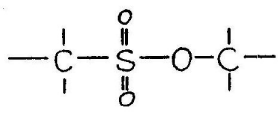
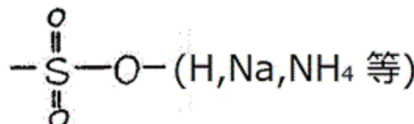
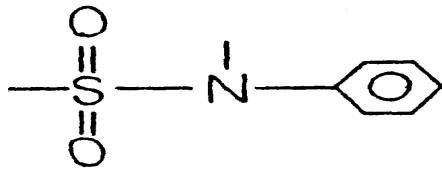
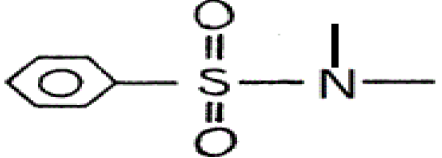
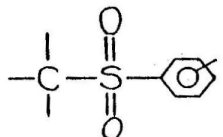
注

このグループにおいて, 記号 C_n は芳香族環系を有しない炭素骨格を示し, $n \geq 2$ である。[3]

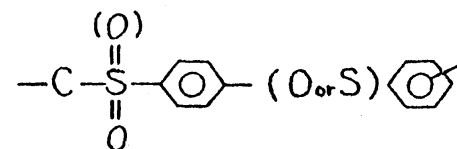
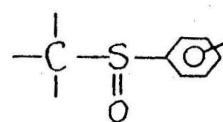
- 39/02 ・ アリールオキシカルボン酸;その誘導体[3]

A $\text{Ar}-\text{O}-\text{C}_m\cdots\text{COO}-$

B $\text{Ar}-\text{O}-\text{C}_m\cdots\text{CON}<$

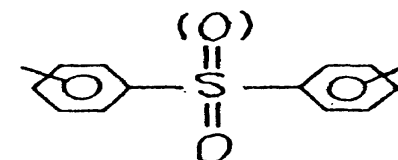
- C $\text{Ar}-\text{O}-\text{Cm}\cdots\text{CN}$
- D 
- E A-D の 2 つ以上の組合せ
- Z そ の 他 の も の 但
し, $\text{R}: \text{O}, \text{S}, \text{CmH}_2\text{m}, \text{OCmH}_2\text{m}, \text{SCmH}_2\text{m}, \text{m} \geq 1$
- 39/04 ・ ・ アリールオキシ酢酸; その誘導体 [3]
- A $\text{Ar}-\text{O}-\text{CH}_2\text{COO}-$
- B $\text{Ar}-\text{O}-\text{CH}_2\text{CON}<$
- C $\text{Ar}-\text{O}-\text{CH}_2\text{CN}$
- D 
- E A-D の 2 つ以上の組合せ
- Z そ の 他 の も の 但
し, $\text{R}: \text{O}, \text{S}, \text{CmH}_2\text{m}, \text{OCmH}_2\text{m}, \text{SCmH}_2\text{m}, \text{m} \geq 1$
- 41/00 殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 異種原子に結合した硫黄原子を有する有機化合物を含むもの [3]
- 41/02 ・ 硫黄—酸素二重結合を有するもの [3]
- 41/04 ・ ・ スルホン酸; その誘導体 [3]
- A 
- Z そ の 他 の も の
- A 
- 41/06 ・ ・ ・ スルホン酸アミド [3]
- A 
- B 
- Z その他のもの
- 41/08 ・ ・ ・ スルホン酸のハロゲン化物; α -ヒドロキシースルホン酸; アミノ—スルホン酸; チオスルホン酸; その誘導体 [3]
- 41/10 ・ ・ スルホン; スルホキシド [3]
- A 
- 又 は

B



又

は



Z その他のもの

41/12 ・ 硫黄—酸素結合をもたない, 例. ポリスルフィド [3]

43/00 殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって複素環式化合物を含むもの (環式無水物, 環式イミドを含むもの A01N37/00; ただし 1 個の複素環

を有する式 $\text{X}_m \equiv \text{C}_n - \text{N} < \text{C} >$ の化合物を含むもの, ここで $m \geq 1, n \geq 0$ であ

り, $-\text{N} < \text{C} >$ は非置換またはアルキル置換したピロリジン, ピペリジン, モルホリン, チオモルホリン, ピペラジンまたは 4 個またはそれ以上の CH_2 基を有するポリメチレンイミン A01N33/00-A01N41/12; シクロプロパンカルボン酸またはその誘導体, 例. 複素環を持つエステル, を含むもの A01N53/00) [3]

注

(1) このグループにおいては, 下記の用語または表現は以下に示す意味で用いる:

注

— “複素環” とは, 少なくとも 1 個のハロゲン, 窒素, 酸素, または硫黄原子を環原子として含む環をいう;

注

— “架橋” はオルソ, ペリ, スピロ以外の少なくとも 1 個の結合の存在を意味する;

注

— 少なくとも 1 個の環原子を共有する 2 個の環は縮合しているとする。すなわち, “スピロ” および “架橋” は縮合と考える;

注

— 縮合環系とは, 環が相互に縮合している 1 個の環系をいう。

[3]

注

(2) このグループにおいては、縮合環系の環の数はその環系を1個の非環式鎖に変換するのに必要な切断の数に等しい。縮合環系における関連する環は、注の基準に従って順次選択する。[3]

注

(i) 環原子数が最少のもの

注

(ii) 環原子として異種原子の数が最多のもの2個以上の環が共有する環原子は各々の環の原子とみなす。[3]

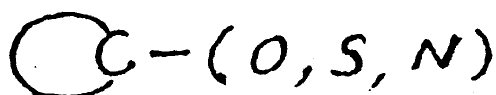
43/02 ・ 異項原子として1個またはそれ以上の酸素または硫黄原子のみをもつ環を有するもの[3]

43/04 ・ 1個の異種原子をもつもの[3]

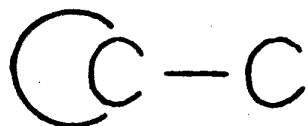
43/06 ・ ・ ・ 5員環[3]

43/08 ・ ・ ・ 異項原子として酸素をもつもの[3]

A



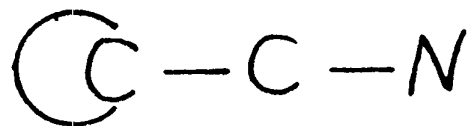
, ただし, 低級アルキル置換基があっても無視する



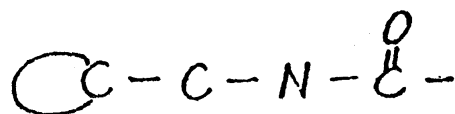
B

C

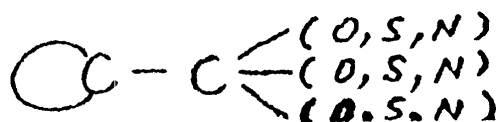
D



E



F



, 例. 環の炭素原子にエステルまたはニトリルが結合したもの

G

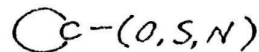
H

水素添加されたもの

Z
43/10

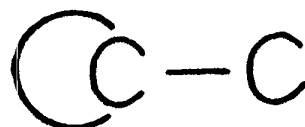
その他のもの

・ ・ ・ 異項原子として硫黄をもつもの[3]



A

, ただし, 低級アルキル置換基があっても無視する



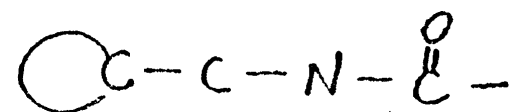
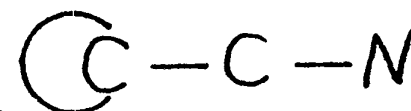
B

C

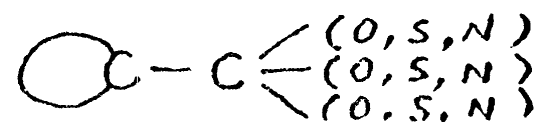


D

E



F

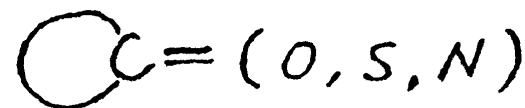


, 例. 環の炭素原子にエステルまたはニトリルが結合したもの

G

H

水素添加されたもの



Z
43/12

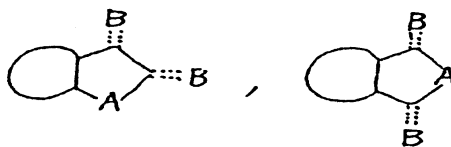
その他のもの

・ ・ ・ 炭素環と縮合しているもの[3]

A

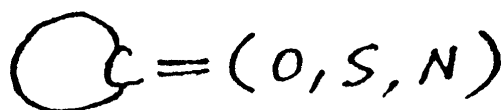
B

複素環部分が水素添加されたもの



であって、AはOまたはS、BはO、SまたはNであるもの

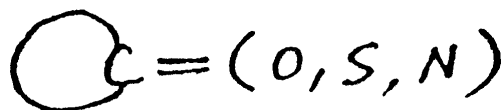
- Z その他のもの
43/14 6員環[3]
A 水素添加されたもの
B



- C 炭素環と縮合したもの
Z その他のもの
43/16 異項原子として酸素をもつもの[3]
A 水素添加されたもの
B

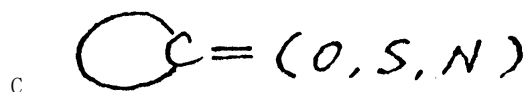


- C 炭素環と縮合したもの
Z その他のもの
43/18 異項原子として硫黄をもつもの[3]
A 水素添加されたもの
B



- C 炭素環と縮合したもの
Z その他のもの
43/20 3または4員環[3]
43/22 7員以上の環[3]
43/24 2個またはそれ以上の異種原子をもつもの[3]
43/26 5員環[3]
43/28 1, 3の位置に2個の異種原子をもつもの[3]
43/30 1, 3の位置に2個の酸素原子をもち炭素環と縮合したもの[3]
43/32 6員環[3]
43/34 異項原子として1個の窒素原子のみをもつ環を有するもの[3]

- 43/36 5員環[3]
A 置換基をもつもの
B 水素添加されたもの

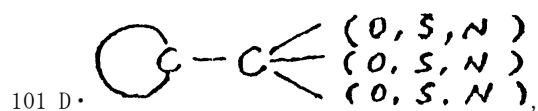
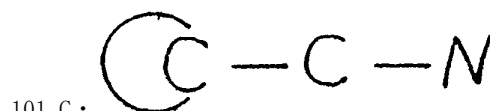
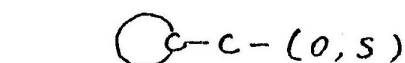


- Z その他のもの

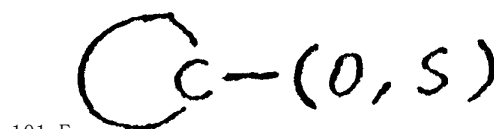
- 43/38 炭素環と縮合したもの[3]

- 43/40 6員環[3]

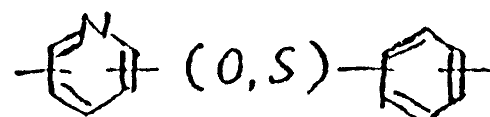
- 101 ピリジン; 水素添加ピリジン



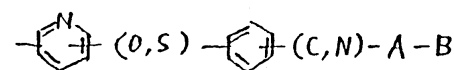
例. 環の炭素原子にエステルまたはニトリルが結合したもの



- 101 F

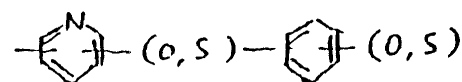


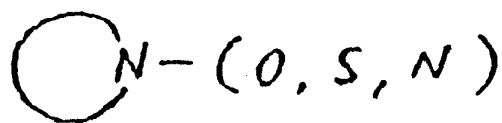
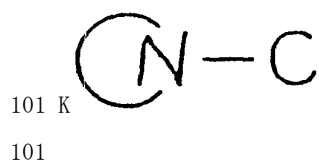
- 101 G



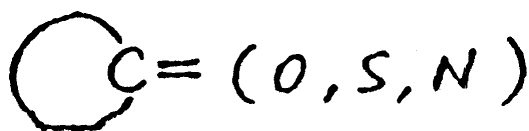
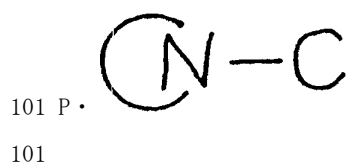
であって、AおよびBはC、O、SまたはNであるもの

- 101 H

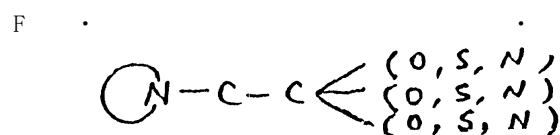
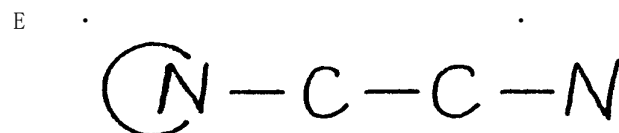
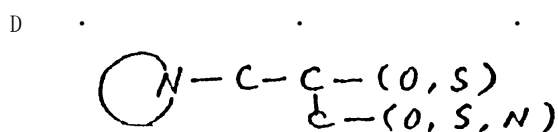
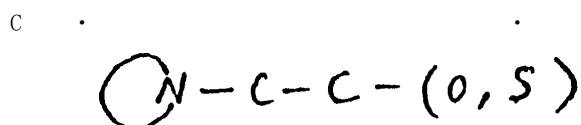
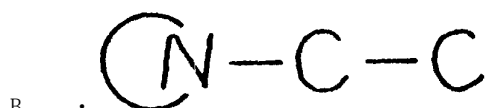




101 M他の複素環と直接結合したもの
101 N水素添加されたもの

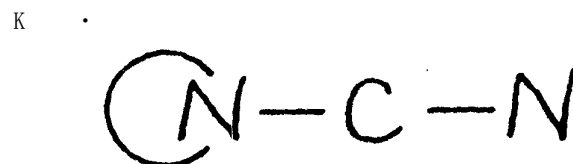
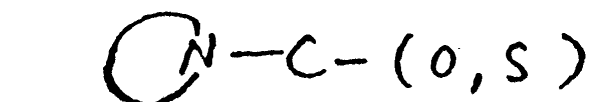
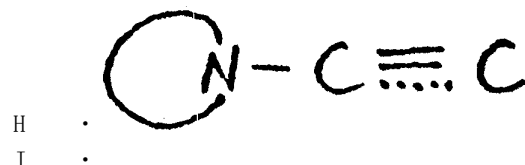


- 101 Zその他のもの
102 . . . ビピリジン; 水素添加ビピリジン
43/42 . . . 炭素環と縮合したもの[3]
101 . . . キノリン; 水素添加キノリン
102 . . . イソキノリン; 水素添加イソキノリン
43/44 . . 3 または 4 員環[3]
43/46 . . 7 員以上の環[3]
43/48 . 異項原子として 2 個の窒素原子のみをもつ環を有するもの[3]
43/50 . . 1,3-ジアゾール; 水素添加 1,3-ジアゾール[3]

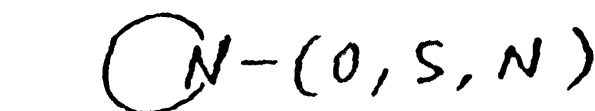


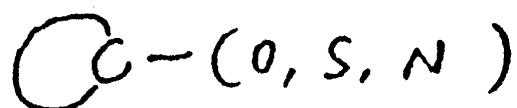
, 例. 環の炭素原子にエステルまたはニトリルが結合したもの

G . 環の炭素原子または窒素原子に, 複素環が結合したもの, または $\text{N}-\text{C}$
 $\text{N}-\text{C}-\text{C}$ の C に, 他の複素環が結合したもの

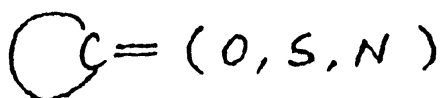


L $\text{C}-\text{C}$ (C を含む置換基が低級アルキルであって, 環窒素原子上に低級アルキル以外の置換基を有するものは A01N43/50A-A01N43/50K を優先させる)
M





P 水素添加されたもの



Q

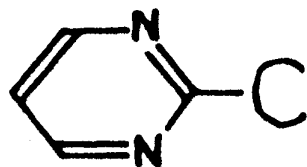
R $\cdot \text{C}=(\text{O}, \text{S}, \text{N})_n \quad (n \geq 2)$

Z その他のもの

43/52 $\cdot \cdot \cdot$ 炭素環と縮合したもの, 例. ベンゾイミダゾール[3]

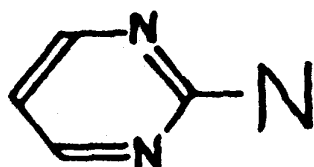
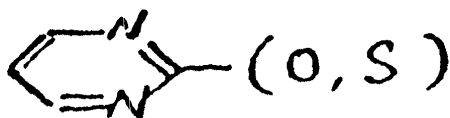
43/54 $\cdot \cdot \cdot$ 1,3-ジアジン; 水素添加 1,3-ジアジン[3]

A 置換基をもつもの



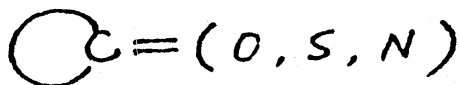
B \cdot

C \cdot



D \cdot

E 水素添加されたもの



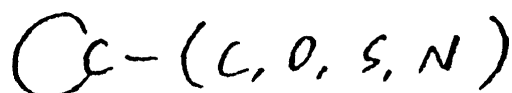
F

G 炭素環と縮合したもの

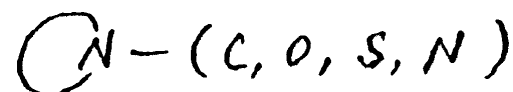
Z その他のもの

43/56 $\cdot \cdot \cdot$ 1,2-ジアゾール; 水素添加 1,2-ジアゾール[3]

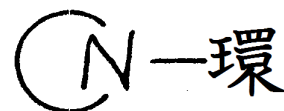
A



B



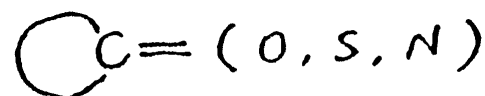
C $\cdot \text{N}$ -低級アルキル または N -低級アルケニル



D \cdot

E 水素添加されたもの

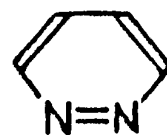
F



G 炭素環と縮合したもの

Z その他のもの

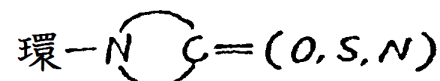
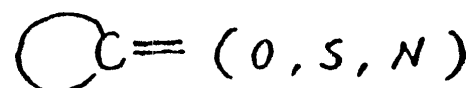
43/58 $\cdot \cdot \cdot$ 1,2-ジアジン; 水素添加 1,2-ジアジン[3]



A

で置換基をもつもの

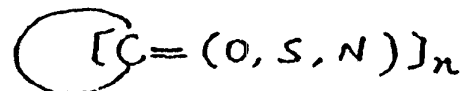
B



C \cdot

であって, 環が N に直接ついたもの

D \cdot



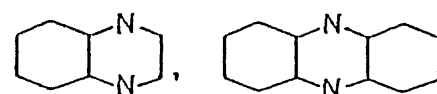
であって, n が 2 以上であるもの

E 炭素環と縮合したもの

Z その他のもの, 例. 水素添加されたもの

43/60 $\cdot \cdot \cdot$ 1,4-ジアジン; 水素添加 1,4-ジアジン[3]

101 $\cdot \cdot \cdot$ 炭素環と縮合したもの

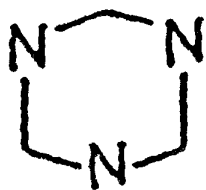


43/62

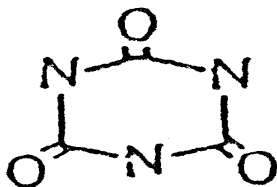
$\cdot \cdot \cdot$ もしくは 4 員環または 7 員以上の環

A01N

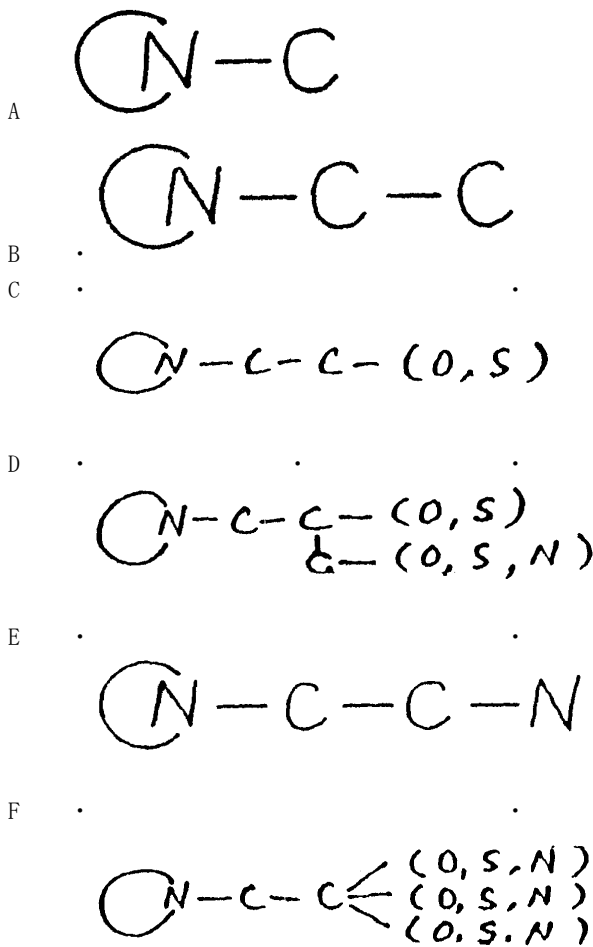
- [3]
43/64 ・異項原子として 3 個の窒素原子のみをもつ環を有するもの[3, 4]
104 ・ ・ 水 素 添 加 1,3,5 - ト リ ア ジ



- ン,
105 ・ ・ ・ イ ソ シ ア ヌ ル

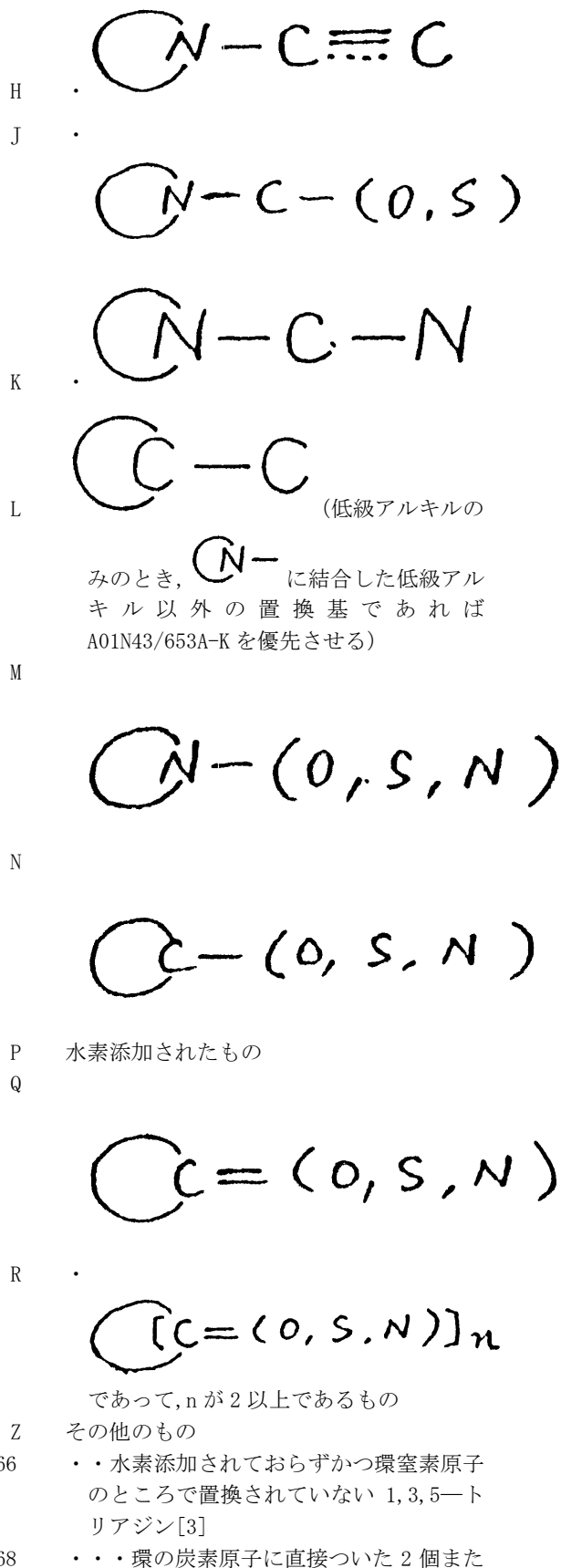


- 酸,
43/647 ・ ・ トリアゾール;水素添加トリアゾール[4]
43/653 ・ ・ ・ 1,2,4-トリアゾール;水素添加 1,2,4-トリアゾール[4]

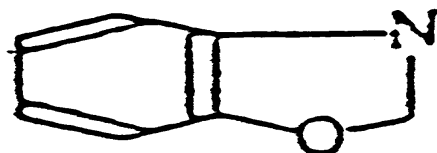


- , 例. 環の炭素原子にエステルまたはニトリルが結合したもの
G ・ ・ 環の炭素原子または窒素原子に, 複素環が結合したもの, または $\text{N}-\text{C}$

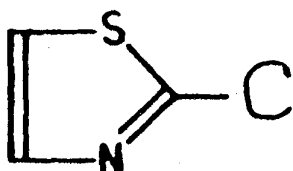
$\text{N}-\text{C}-\text{C}$ の C に, 他の複素環が結合したもの



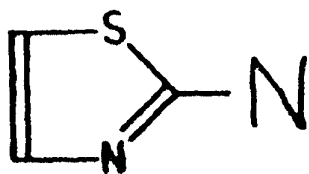
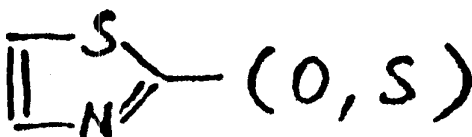
- は 3 個の窒素原子をもつもの[3]
- 43/70 環の炭素原子に直接ついた, ただ 1 個の酸素, 硫黄またはハロゲン原子, またはただ 1 個のシアノ, チオシアノ [$-\text{SCN}$], シアナト [$-\text{OCN}$] またはアジド [$-\text{N}_3$] 基をもつジアミノ-1, 3, 5-トリアジン[3]
- 43/707 . . . 1, 2, 3-または 1, 2, 4-トリアジン; 水素添加 1, 2, 3-または 1, 2, 4-トリアジン[4]
- 43/713 . 異項原子として 4 個またはそれ以上の窒素原子のみをもつ環を有するもの[4]
- 43/72 . 異項原子として窒素原子および酸素または硫黄原子を有する環をもつもの[3]
- 43/74 . . . 1 個の窒素原子と 1 個の酸素原子または 1 個の硫黄原子とを 1, 3 の位置に有する 5 員環[3]
- 43/76 . . . 1, 3-オキサゾール; 水素添加 1, 3-オキサゾール[3]
- 101 ベンゾオキサゾール; 水素添加ベンゾオキサゾール



- 43/78 . . . 1, 3-チアゾール; 水素添加 1, 3-チアゾール[3]
- A 置換基をもつもの



B .
C .

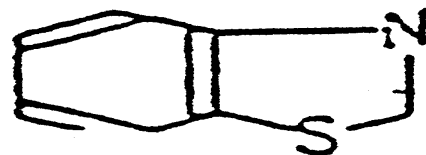


D .
E 水素添加されたもの
F



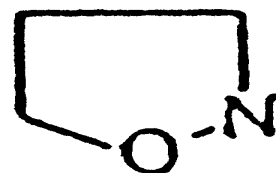
Z その他のもの

- 101 ベンゾチアゾール; 水素添加ベンゾチアゾール



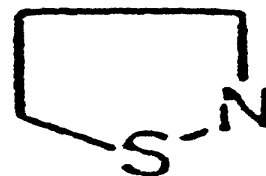
- 43/80 . . . 1 個の窒素原子と 1 個の酸素原子または 1 個の硫黄原子とを 1, 2 の位置に有する 5 員環[3]

- 101 . . . イソオキサゾール; 水素添加イソオキサゾール



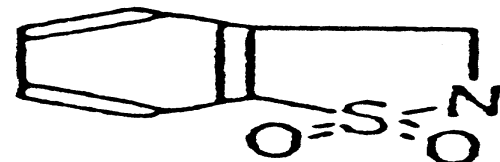
サゾール,

- 102 . . . イソチアゾール; 水素添加イソチアゾール



ール,

- 103



, 例. サッカリン

- 43/82 . . . 3 個の異項原子を有する 5 員環[3]

- 43/824 . . . 1, 3, 4-オキサジアゾール; 1, 3, 4-チアジアゾール; 水素添加 1, 3, 4-オキサジアゾール; 水素添加 1, 3, 4-チアジアゾール[6]

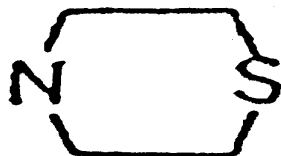
- A 環の炭素原子に, 炭素原子が直接結合したもの
- B 環の炭素原子に, 酸素原子または硫黄原子が直接結合したもの
- C . 酸素原子または硫黄原子が, 水酸基, メルカプト基, オキシ基またはチオキシ基の一部であるもの
- D 環の炭素原子に, 窒素原子が直接結合したもの
- E 環の炭素原子に, 複素環が直接結合したもの

- Z その他のもの
- 43/828 ・・・・1,2,3-オキサジアゾール;1,2,3-チア
ジアゾール;水素添加1,2,3-オキサジ
アゾール;水素添加1,2,3-チアジアゾ
ール[6]
- 43/832 ・・・・1,2,5-オキサジアゾール;1,2,5-チ
アジアゾール;水素添加1,2,5-オキサジ
アゾール;水素添加1,2,5-チアジアゾ
ール[6]
- 43/836 ・・・・1,2,4-オキサジアゾール;1,2,4-チ
アジアゾール;水素添加1,2,4-オキサジ
アゾール;水素添加1,2,4-チアジアゾ
ール[6]
- 43/84 ・・・・1個の窒素原子と1個の酸素原子また
は1個の硫黄原子とを1,4の位置に有す
る6員環[3]
- 101 ・・・・1,4-オキサジン;水素添加 1,4-オ



キサジン,

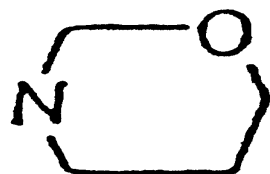
- 102 ・・・・1,4-チアジン;水素添加 1,4-チア



ジン,

- 43/86 ・・・・1個の窒素原子と1個の酸素原子また
は1個の硫黄原子とを1,3の位置に有す
る6員環[3]

- 101 ・・・・1,3-オキサジン;水素添加 1,3-オ



キサジン,

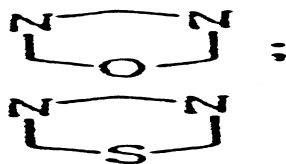
- 102 ・・・・1,3-チアジン;水素添加 1,3-チア



ジン,

- 43/88 ・・・・3個の異項原子を有する6員環[3]

- 101 ・・・・1,3,5-オキサジアジン;水素添加 1,3,5
— オ キ サ ジ ア ジ

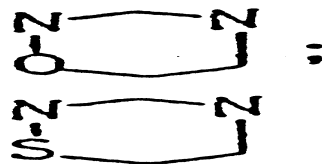


ン,

1,3,5-

チアジアジン;水素添加1,3,5-チアジア
ジン

- 102 ・・・・1,2,4-オキサジアジン;水素添加1,2,4
— オ キ サ ジ ア ジ

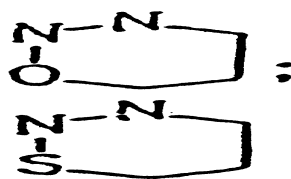


ン,

1,2,4-

—チアジアジン;水素添加1,2,4-チアジ
アジン

- 103 ・・・・1,2,3-オキサジアジン;水素添加1,2,3
— オ キ サ ジ ア ジ

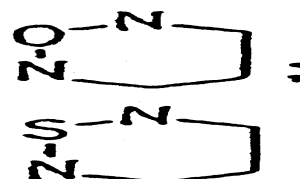


ン,

1,2,3-

チアジアジン;水素添加1,2,3-チアジ
アジン

- 104 ・・・・1,2,6-オキサジアジン;水素添加1,2,6
— オ キ サ ジ ア ジ

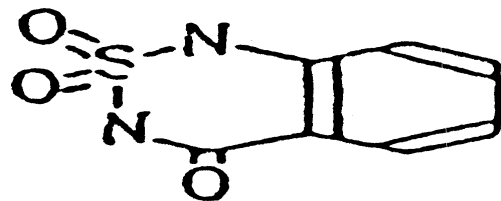


ン,

1,2,6-

チアジアジン;水素添加1,2,6-チアジ
アジン

- 105 ・・・・2,1,3-ベンゾチアジアジン—4—
オン — 2,2 — ジ オ キ サ イ
ド



- 43/90 ・相互に,または共通の炭素環系と縮合して
いる2個またはそれ以上の関連する複素
環をもつもの[3]

- 101 ・・・・縮合複素環系中に環窒素原子をもたないもの

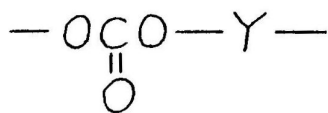
- 102 ・・・・縮合複素環系中に1個の環窒素原子をもつもの

- 103 ・・・・縮合複素環系中に2個の環窒素原子をもつもの

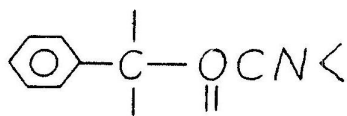
- 104 ・・・・縮合複素環系中に3個の環窒素原子をもつもの

- 105 ・・・・縮合複素環系中に4個の環窒素原子をもつもの

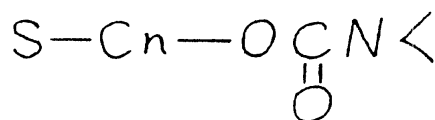
- もつもの
- 106 ・ ・ 縮合複素環系中に 5 個またはそれ以上の窒素原子をもつもの
- 43/92 ・ 異項原子として 1 個またはそれ以上のハロゲン原子をもつ環を有するもの[3]
- 45/00 少なくとも 1 つの環が 6 員環ではなく, 相互に縮合した 3 つ以上の炭素環を有する化合物を含有している殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤 (ハロゲン化炭化水素 A01N29/08; 複素環と縮合したもの A01N43/00) [3]
- 45/02 ・ 3 個の炭素環を有するもの[3]
- 47/00 殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 環の一員でなくまた炭素または水素原子との結合をもたない炭素原子を含む有機化合物を含むもの, 例. 炭酸の誘導体 (四ハロゲン化炭素 A01N29/02) [3]
- 47/02 ・ 窒素原子との結合をもたない炭素原子[3]
- 47/04 ・ ・ >N—S—C≡Hal₃ 基をもつもの[3]
- 101 ・ ・ ・ その窒素原子が環の一員であるもの
- 47/06 ・ ・ —O—CO—O—基をもつもの; そのチオ類似体[3]
- A 非置換脂肪族基又は, 非置換環式脂肪族基に結合するもの
- B アリール基を有するもの
- C ・ アリール基に直接結合するもの
- D 複素環を有するもの



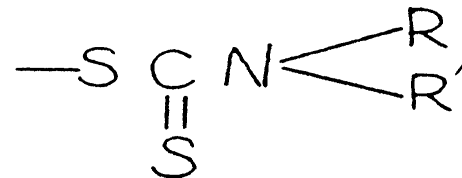
- E 基 を有するもの; そのチオ類似体
- Z その他のもの
- 47/08 ・ 窒素原子への 1 個またはそれ以上の単結合をもつ炭素原子[3]
- 47/10 ・ ・ カルバミン酸誘導体, すなわち—O—CO—N<基を有するもの; そのチオ類似体[3]
- A 農薬活性成分の混合物
- B 製剤; 不活性成分の混合
- Z その他のもの
- 47/12 ・ ・ ・ —O—CO—N<基, またはそのチオ類似体を有し直接環についていないしまた窒素原子が複素環の 1 員でもないもの[3]



- A 基 を有するもの; そのチオ類似体
- B 基 [O 又は S]

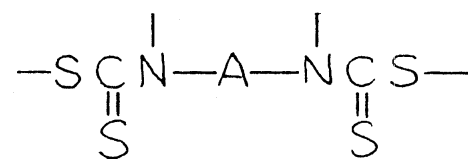


- を有するもの; そのチオ類似体
- Z その他のもの
- 101 ・ ・ ・ 複素環を有するもの
- 102 ・ ・ ・ ・ 環異項原子として窒素原子をもつもの
- 47/14 ・ ・ ・ ・ そのジチオ類似体[3]
- A 基



を有するもの R, R' は, 水素又は非置換アルキル基

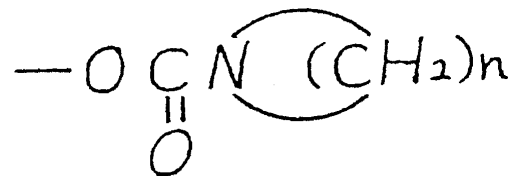
- B 基



を有するもの, A は 2 価の非環式残基

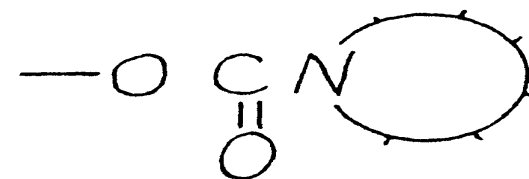
- C ・ A が (CH₂)_nC 基
- D ・ 農薬活性成分の混合物; 製剤; 不活性成分の混合
- Z その他のもの
- 47/16 ・ ・ ・ 窒素原子が複素環の一部であるもの[3]

- A 基



を有するもの; そのチオ類似体

- B 基



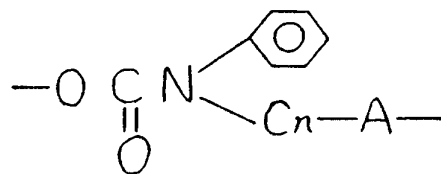
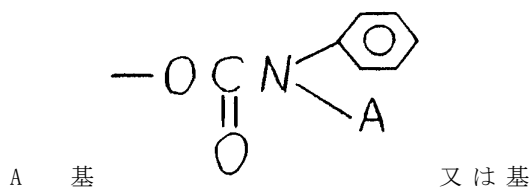
を有するもの; そのチオ類似体

- Z その他のもの
- 47/18 ・ ・ ・ 複素環または環式脂肪族環に直接ついている—O—CO—N<基またはそのチオ類似体を有するもの[3]
- 101 ・ ・ ・ ・ 複素環に直接ついたもの
- 101 A 複素環が異項原子として窒素原子のみを有するもの
- 101 B ・ 窒素原子 2 個を有するもの
- 101 C ・ ・ ベンズイミダゾール

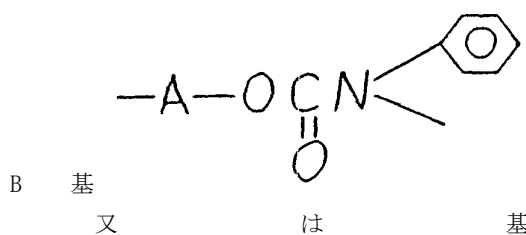
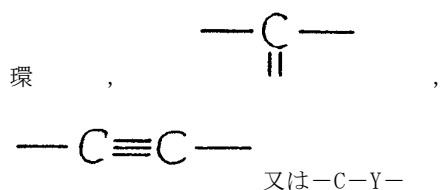
101 D・農薬活性成分の混合物;不活性成分の混合

101 Zその他のもの

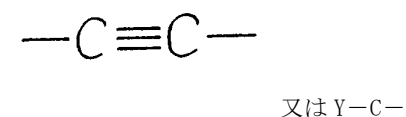
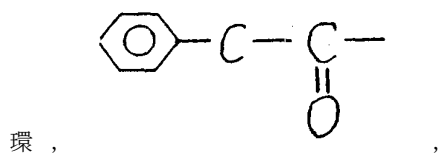
47/20 ...そのN-アリアル誘導体[3]



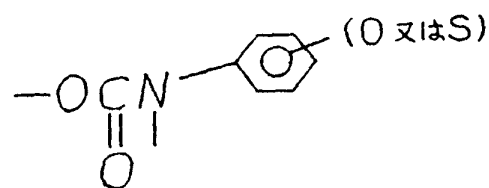
を有するもの。A は炭素環, 複素



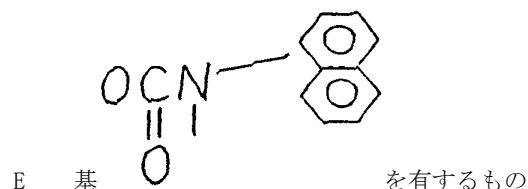
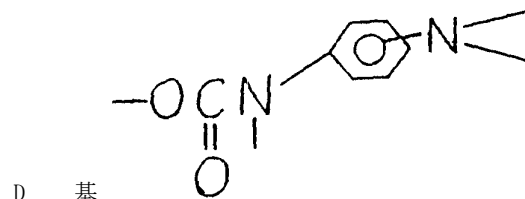
を有するもの。A は脂肪族環, 複素



C 基



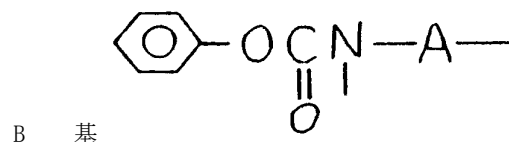
を有するもの



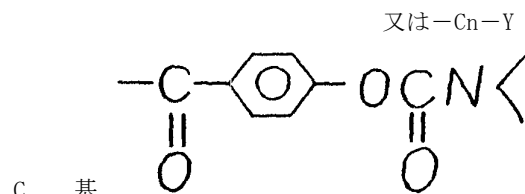
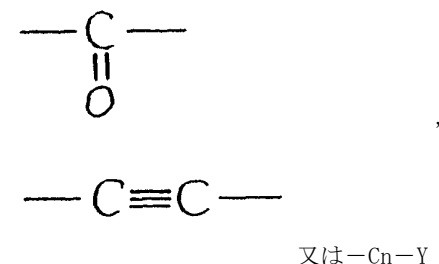
Z その他のもの

47/22 ...そのO-アリアルまたはS-アリアルエステル[3]

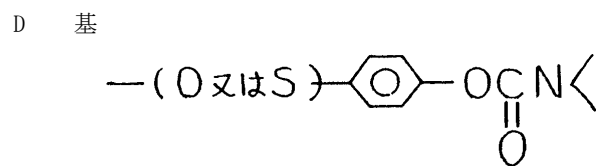
A 農薬活性成分の混合物;不活性成分の混合



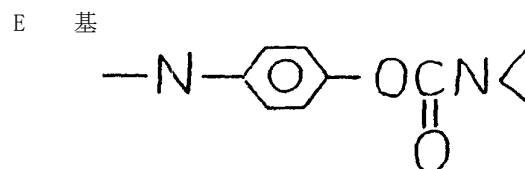
を有するもの。A はアリアル・ベンジン



を有するもの

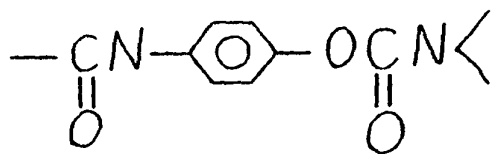


を有するもの



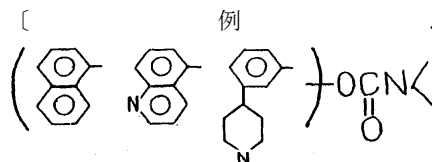
を有するもの

F 基



を有するもの

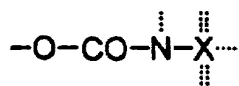
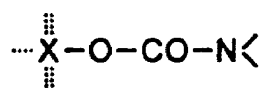
G アリール基が他の環と縮合したもの;アリール基が複素環と結合したもの



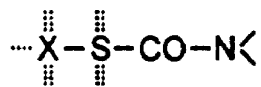
]

Z その他のもの

47/24

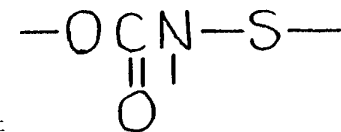


また は



を有するもの;そ

のチオ類似体[3]



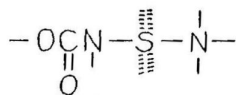
A 基

るもの

を有す

B

・基 $-\text{O}-\text{C}(=\text{O})\text{N}-\text{S}-$ を有するもの



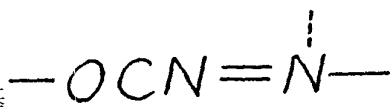
C

・基

を有するもの

D

基

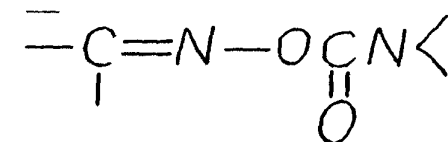


を有

するもの

E

基



を有するもの

F

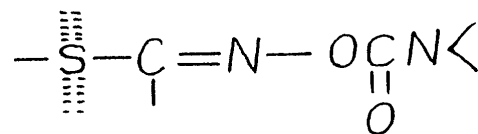
・アリール基又は環式脂肪族基を有するもの

G

複素環を有するもの

H

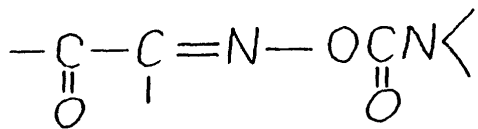
基



又

は

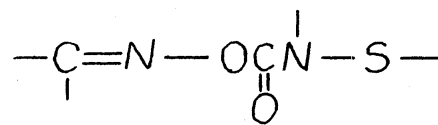
基



を有するもの

J

基



を有するもの

Z

その他のもの

47/26

・・・ジチオカルバミン酸誘導体の酸化物, 例. チウラムスルフィド[3]

47/28

・・・基>N-CO-N<または>N-CS-N<を有する尿素またはチオ尿素(イソ尿素, イソチオ尿素 A01N47/42) [3]

A

農薬活性成分の混合物;不活性成分の混合

Z

その他のもの

101

・・・複素環を有するもの

102

・・・環異項原子として窒素原子をもつもの

47/30

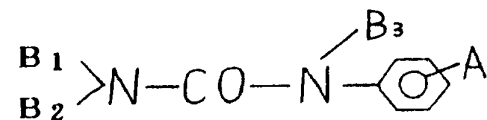
・・・基>N-CO-N-アリールまたは>N-CS-N-アリールを有する誘導体[3]

A

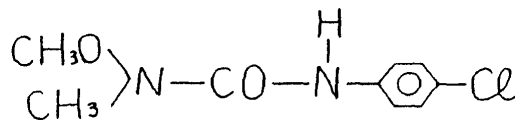
農薬活性成分の混合物;不活性成分の混合

B

基

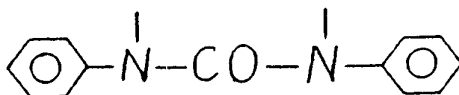


を有するもの。AはYを含まない基, B1.B2はさらにアルコキシ基の場合を含む。



C

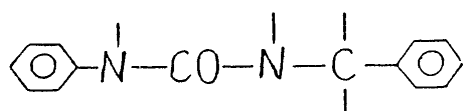
基



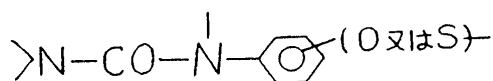
又

は

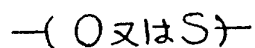
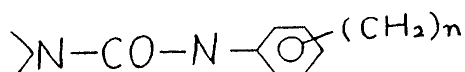
基



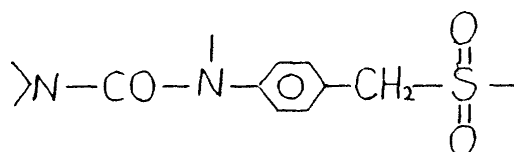
- を有するもの
D 複素環を有するもの
E 基



又 は , 基

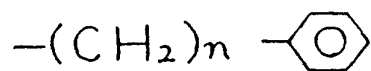


,
例

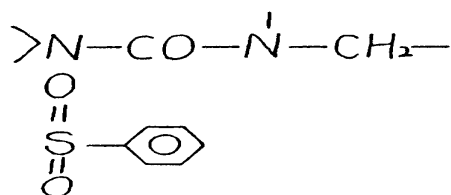


- F • [例. $\begin{matrix} \text{CH}_3 \\ | \\ \text{H} \end{matrix} >\text{N}-\text{CO}-\text{N}(\text{H})-\text{C}_6\text{H}_4-\text{S}-\text{CF}_2\text{Cl}$]

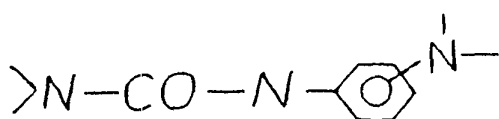
- G • その残基として $-\text{C}_6\text{H}_4-$ 又は



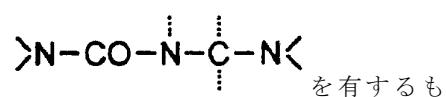
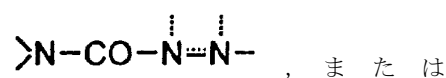
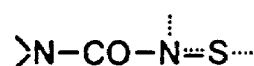
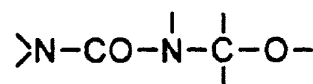
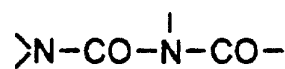
を有するもの。例



- H 基

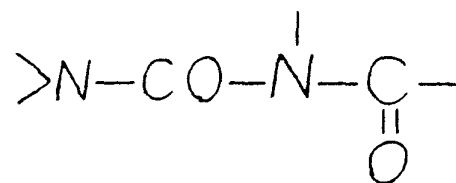


- Z
47/32 有するもの
その他のもの
• • • 環式脂肪族環に直接つく $>\text{N}-\text{CO}-\text{N}<$
または $>\text{N}-\text{CS}-\text{N}<$ 基を有するもの [3]
47/34 • • • 基

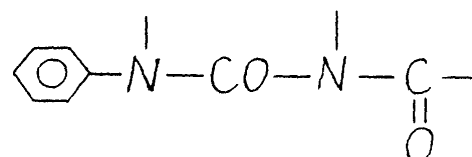


を有するもの, 例. ビウレット; そのチオ類似体; 尿素—アルデヒド縮合物 [3]

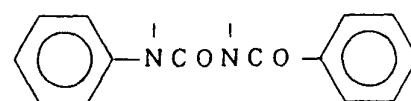
- A 基



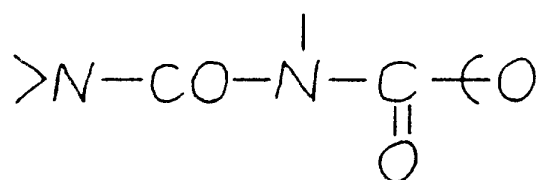
- B • 有するもの 基



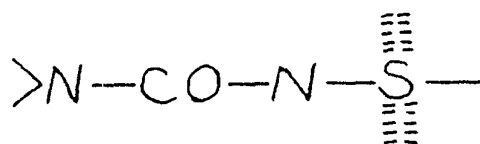
- C • 有するもの 基



- D • 有するもの 基

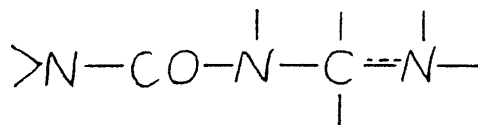


- E 基



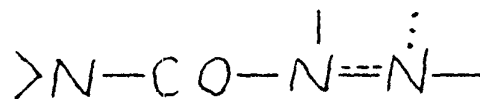
を有するもの

F 基



を有するもの

G 基



を有するもの

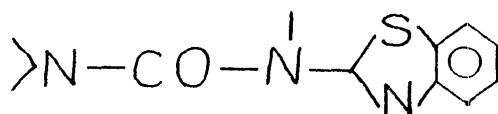
Z その他のもの

47/36 ・・・・少なくとも1個の複素環に直接つく
基 $>N-CO-N<$ を有するもの; そのチオ類似体[3]

101 ・・・・複素環が環異項原子として窒素原子をもつもの

101 A 異項原子として窒素原子を1個有するもの

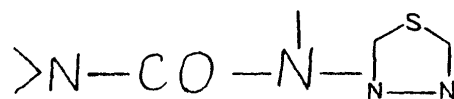
101 B ・1,3-チアゾール系; 水素添加 1,3-チアゾール系
[例]



]

101 C 異項原子として窒素原子を2個及び酸素原子、もしくは硫黄原子を1個有する5員環

101 D ・1,3,4-チアジアゾール, 1,3,4-オキサジアゾール, 又は, これらの水素添加物
[例]



]

101 E 異項原子として窒素原子のみを2個又は3個有する6員環

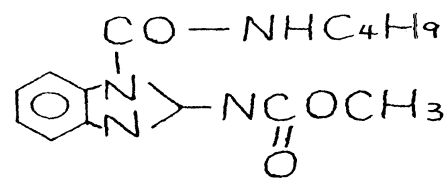
101 Z その他のもの

47/38 ・・・・少なくとも1個の窒素原子が複素環の一部であるところの $>N-CO-N<$ 基を有するもの; そのチオ類似体[3]

A 異項原子として窒素原子のみを有するもの

B ・窒素原子を2個有するもの

C ・ ・ ・ ベ ン ズ イ ミ ダ ゾ ー ル
[例]



]

Z その他のもの [0 又は S 含有複素環等]

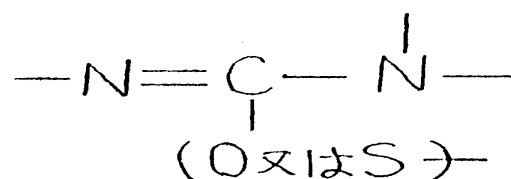
47/40 ・窒素と二重または三重結合を形成する炭素原子, 例. シアネート, シアナミド [2006. 01]

A イソニトリル $[R-NC]$

Z その他

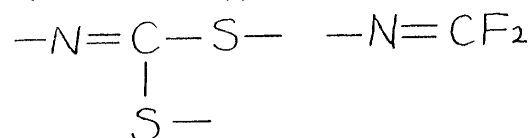
47/42 ・ ・ ・ $-N=CX_2$ 基を有するもの, 例. イソチオ尿素[3]

A 基



を有するもの

Z そ の 他 の も の
[例]



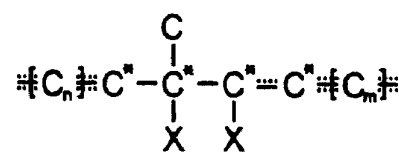
]

47/44 ・・・・グアニジン; その誘導体[3]

47/46 ・ ・ ・ $-N=C=S$ 基をもつもの[3]

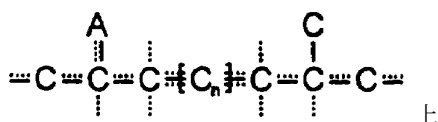
47/48 ・ ・ ・ $-S-C \equiv N$ 基をもつもの
(A01N43/00-A01N47/38 が優先) [3]

49/00 次のいずれかの基を含む化合物を含有している殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤, 例. 幼若昆虫ホルモンまたはその類似体 (炭化水素を含むもの A01N27/00)



上

式において, $m+n \geq 1$ であり, 2つのXはいっしょになって $-Y-$ または直接炭素-炭素結合を意味することもあり, 星印のついている炭素原子は, 2つの原子Xによって形成されることのある環系の場合を除いて, いかなる環系の一部でもなく, 角かっこの中の炭素原子は, 非環式または環式構造の一部である。



- 式においては、Aは1つの炭素原子またはYを意味し、 $n \geq 0$ であり、これらの炭素原子のうち2つ以上の炭素原子が同じ環系の一部であることはない。[3]
- 51/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって、各原子が有する結合の数に関係なくまたこの配列の原子が複素環の1部でないO—N—S, X—O—S, N—N—S, O—N—N またはO—ハロゲンの原子配列を有する有機化合物を含むもの[3]
- 53/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であってシクロプロパンカルボン酸またはその誘導体を含むもの[3]
- 53/02 $\begin{array}{c} \text{---C---I} \\ \text{||} \\ \text{---C---} \end{array} \text{---C---CO---O---C}^*$ *印のついた炭素原子が非環式か、環または環系の一部であるような基を含むエステル;そのチオ類似体[6]
- 53/04
- 100 ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルの酸部分にのみ複素環を有するもの
 - 200 ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルのアルコール部分に複素環を有するもの
 - 300 ・ ・ ・ ・ ・ *印のついた炭素原子が非環式で、複素環または複素環系に直接結合したものであって、*印のついた炭素原子に直接結合する環が6員の芳香族環ではないもの
 - 400 ・ ・ ・ ・ ・ 複素環または複素環系が、環異項原子として酸素原子または硫黄原子のみを有するもの
 - 410 ・ ・ ・ ・ ・ 複素環または複素環系上に、アリアル基またはアリアルアルキル基が結合したもの
 - 500 ・ ・ ・ ・ ・ 複素環または複素環系が、環異項原子として窒素原子のみを有するもの
 - 510 ・ ・ ・ ・ ・ 複素環または複素環系が、フタルイミドであって、複素環側で*印の付いた炭素原子に結合しているもの
 - 520 ・ ・ ・ ・ ・ 複素環が2,4-イミダゾリジンジオンであるもの
 - 600 ・ ・ ・ ・ ・ 複素環または複素環系が、環異項原子として窒素原子と酸素原子または硫黄原子とを有するもの
- 53/06 ・ ・ *印のついた炭素原子が非環式で、6員の芳香族環の炭素原子に直接結合したも

の、例. ベンジルエステル;そのチオ類似体[6]

- 100 ・ ・ ・ 6員の芳香族環が、単環であるもの
 - 110 ・ ・ ・ ・ 単環の6員芳香族環に、ハロゲンが結合したもの
 - 120 ・ ・ ・ ・ 単環の6員芳香族環に、酸素原子または硫黄原子が結合したもの（アリアルオキシ基が結合したものA01N53/08）
 - 130 ・ ・ ・ ・ 単環の6員芳香族環に、窒素原子が結合したもの
 - 140 ・ ・ ・ ・ 単環の6員芳香族環に、環が直接結合したもの
 - 150 ・ ・ ・ ・ ・ 単環の6員芳香族環がベンゼン環であり、さらにフェニル基が結合したもの、例. ビフェントリン
 - 200 ・ ・ ・ 6員の芳香族環が、他の環と縮合しているもの
- 53/08 ・ ・ ・ 6員の芳香族環に結合したアリアルオキシ基を有するもの、例. フェノキシベンジルエステル;そのチオ類似体[6]
- 100 ・ ・ ・ ・ 6員の芳香族環が、単環であるもの
 - 110 ・ ・ ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルの酸部分に不飽和結合を有するもの
 - 120 ・ ・ ・ ・ ・ 不飽和結合を形成する炭素原子にハロゲンが結合するもの
 - 125 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ジクロルビニル基であるもの
 - 130 ・ ・ ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルの酸部分に、さらに環を有するもの
 - 200 ・ ・ ・ ・ 6員の芳香族環が、他の環と縮合しているもの
- 53/10 ・ ・ A01N53/04 または A01N53/06 のグループに分類されないエステル[6]
- 100 ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルのアルコール部分が、鎖状の不飽和炭化水素基を有するもの
 - 200 ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルのアルコール部分が、縮合していない脂肪族環を有するもの
 - 210 ・ ・ ・ ・ 4-オキソ-2-シクロペンテン-1-イルエステル構造を有するもの、例. ピレトリン
 - 300 ・ ・ ・ シクロプロパンカルボン酸エステルのアルコール部分が、炭素環と縮合した脂肪族環を有するもの
- 53/12 $\begin{array}{c} \text{---C---I} \\ \text{||} \\ \text{---C---} \end{array} \text{---C---C---X} \begin{array}{c} \diagup \\ \text{Y} \end{array}$ においてXまたはYの少なくとも1つが窒素原子である基を含む化合物、例. シクロプロパンカルボン酸アミド[6]
- 53/14 ・ シクロプロパンカルボン酸ニトリル[6]

55/00 殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 炭素, 水素, ハロゲン, 酸素, 窒素および硫黄以外の元素を有する有機化合物を含むもの (有機リン化合物を含むもの A01N57/00) [3]

55/02 ・金属を含むもの[3]

100 ・・ヒ素

110 ・・鉛

120 ・・カドミウム

130 ・・ニッケル

140 ・・ビスマス

150 ・・亜鉛

160 ・・銅

55/04 ・・スズ[3]

100 ・・・スズに炭素原子のみが結合しているもの

200 ・・・スズに酸素原子が結合しているもの

210 ・・・・酸素原子が水酸基の一部であるもの

220 ・・・・Sn—O—Snの構造を有するもの

230 ・・・・Sn—O—CO—の構造を有するもの

300 ・・・スズに硫黄原子が結合しているもの

400 ・・・スズにハロゲン原子が結合しているもの

500 ・・・スズに窒素原子が結合しているもの

600 ・・・スズを含む高分子化合物

55/06 ・・水銀[3]

55/08 ・ホウ素を含むもの[3]

55/10 ・ケイ素を含むもの[6]

100 ・・ケイ素に, 炭素原子が結合した酸素原子 3 個と, 炭素原子 1 個が結合しているもの

200 ・・ケイ素に, 炭素原子 3 個と, 酸素原子 1 個が結合しているもの

300 ・・ケイ素に 4 個の炭素原子が結合しているもの

400 ・・ケイ素に窒素原子が結合しているもの

500 ・・Si—O—Si の構造を有するもの

57/00 殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって有機リン化合物を含むもの[3]

A 他の活性成分との混合物

B 不活性成分との混合物

Z その他のもの

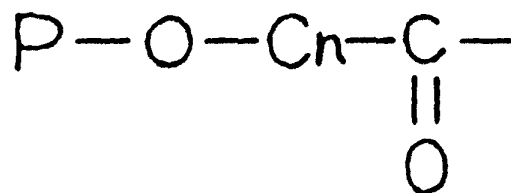
57/02 ・リン原子に結合する択一的に特定された原子をもつものであって, グループ A01N57/10, A01N57/18, A01N57/26, A01N57/34 の単一のグループには属さないもの [3]

A $P-O-C_n-C=C-$ $[n \geq 0]$

B $P-O-C_n-$ $[0, S, N]$ $-$, $[n \geq 0]$

C $\cdot P-O-$ $[0, S, N]$ $-$

D



$[n \geq 0]$

Z その他のもの

57/04 ・・非環式または環式脂肪族基をもつもの [3]

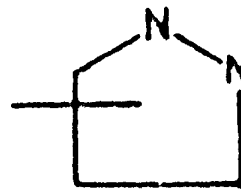
57/06 ・・芳香族基をもつもの[3]

57/08 ・・複素環基をもつもの[3]

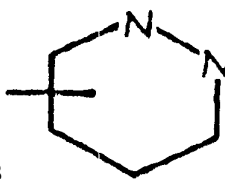
101 ・・・環異項原子として酸素または硫黄原子のみをもつもの

102 ・・・環異項原子として 1 個の窒素原子のみをもつもの

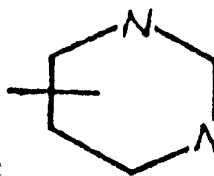
103 ・・・環異項原子として 2 個の窒素原子のみをもつもの



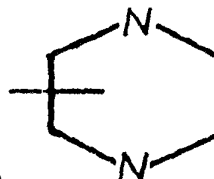
103 A



103 B



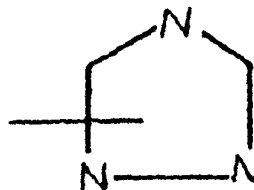
103 C



103 D

103 Z その他のもの

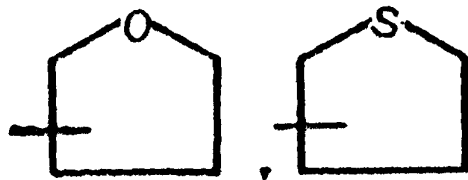
104 ・・・環異項原子として 3 個以上の窒素原子のみをもつもの



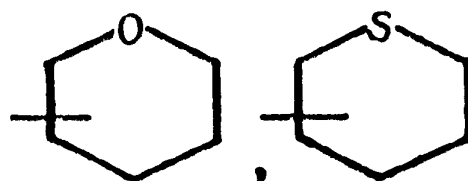
104 A

- Z その他のもの
 57/16 ・・複素環基をもつもの[3]
 101 ・・・環異項原子として酸素または硫黄原子のみをもつもの

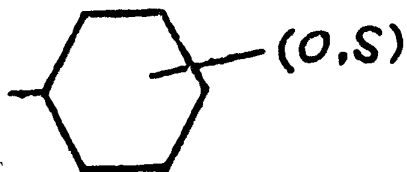
101 A



101 B



101 C 2 個



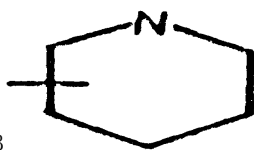
以上

- 101 Z その他のもの
 102 ・・・環異項原子として 1 個の窒素原子のみをもつもの

102 A



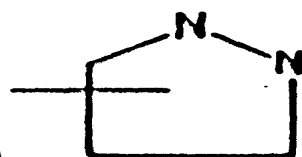
102 B



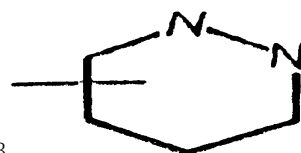
102 Z その他のもの

- 103 ・・・環異項原子として 2 個の窒素原子のみをもつもの

103 A

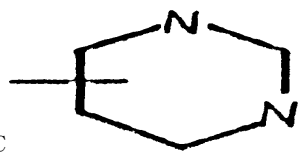


103 B



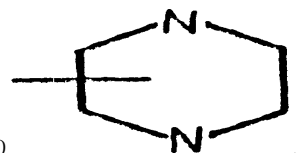
, ピリダジン系

103 C



, ピリミジン系

103 D

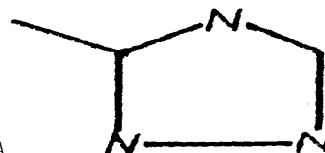


, ピラジン系

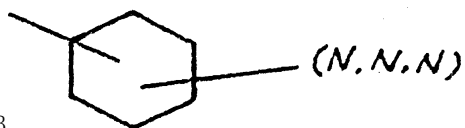
103 Z その他のもの

- 104 ・・・環異項原子として 3 個以上の窒素原子のみをもつもの

104 A



104 B



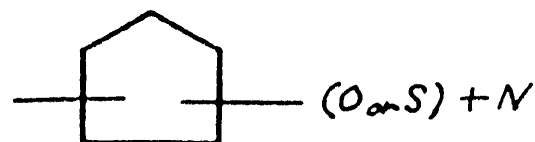
104 C 縮合複素環 [←アデニル酸誘導体, アデノシンリン酸エステル]

104 Z その他のもの

- 105 ・・・環異項原子として窒素原子および酸素または硫黄原子のみをもつもの

105

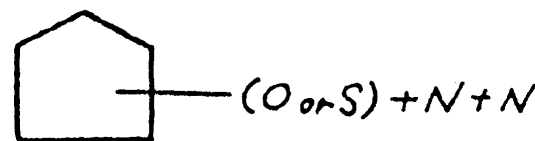
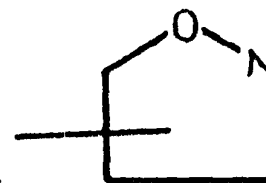
A



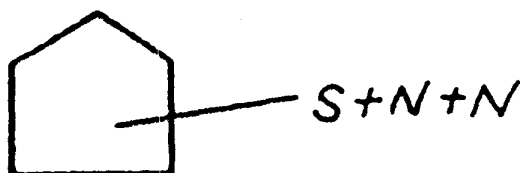
105 B・

105

C



105 D・

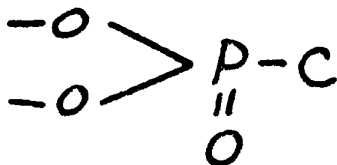


105 E4 個以上の異項原子

105 Zその他のもの

57/18 ・リンー炭素結合をもつもの (A01N57/02
が優先) [3]

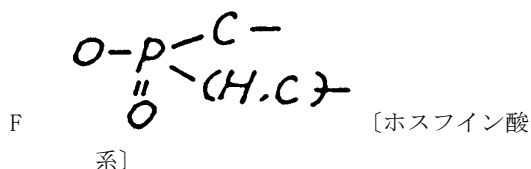
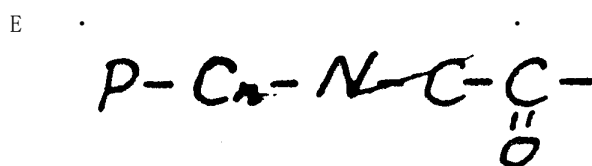
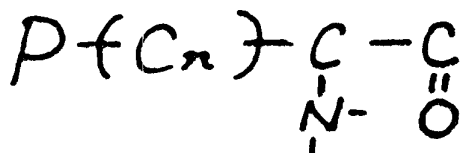
A 混合物, 製剤, 使用方法



B [ホスホン
酸系]

C ・P-Cn-N [n≥1]

D ・

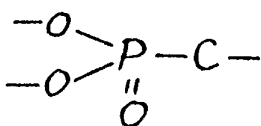


G ・P-C-N<

Z その他のもの

57/20 ・・非環式または環式脂肪族基をもつもの
[3]

A 混合物, 製剤, 使用方法

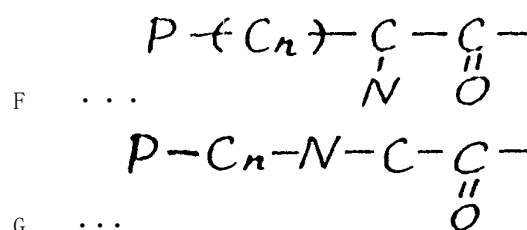


B [ホスホン酸系]

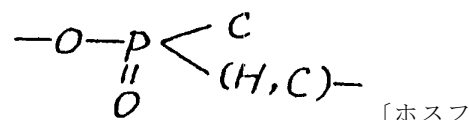
C ・P-C-R [C-R は非置換アルキル, シクロ
アルキル, ハロゲン化アルキル]

D ・P-Cn- [O, S, N] [n≥1]

E ・・P-Cn-N

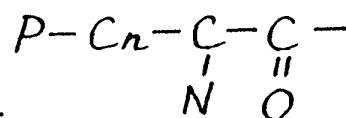


[←N-ホスホノメチルグリシン]



J ・P-C-R [C-R は非置換, ハロゲン, OH 基
置換の炭化水素]

K ・P-Cn-N

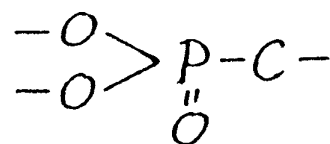
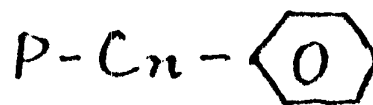
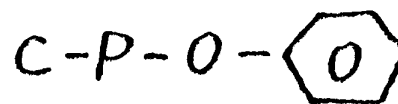


L ・・

Z その他のもの

57/22 ・・芳香族基をもつもの[3]

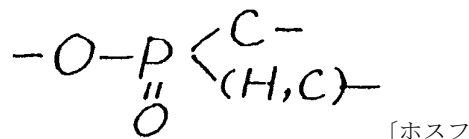
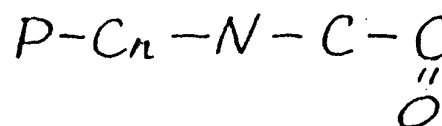
A 混合物, 製剤, 使用方法



E ・P-Cn- [O, S, N] -

F ・・P-Cn-N

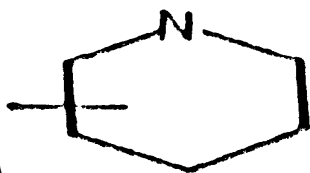
G ・



J ・P-Cn-N

Z その他のもの

- 57/24 ・ ・ 複素環基をもつもの[3]
 101 ・ ・ ・ 環異項原子として酸素または硫黄原子のみをもつもの
 102 ・ ・ ・ 環異項原子として 1 個の窒素原子のみをもつもの



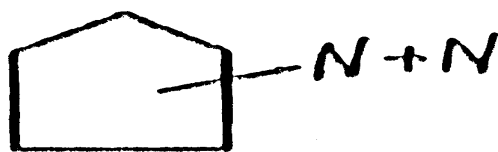
102 A

102 Z その他のもの

- 103 ・ ・ ・ 環異項原子として 2 個の窒素原子のみをもつもの

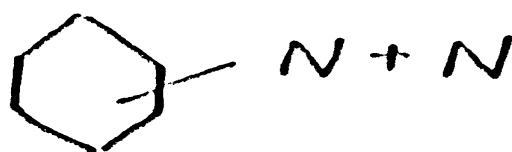
103

A



103

B

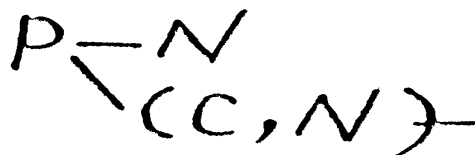


103 Z その他のもの

- 104 ・ ・ ・ 環異項原子として 3 個以上の窒素原子のみをもつもの
 105 ・ ・ ・ 環異項原子として窒素原子および酸素または硫黄原子のみをもつもの

- 57/26 ・ リン-窒素結合をもつもの (A01N57/02 が優先) [3]

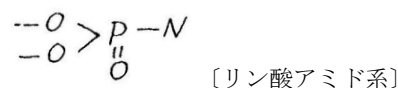
- A $N-P-O-C_n-$ [0, S, N] - $[n \geq 0]$
 B $P-N-C_n-$ [0, S, N] -
 C $\cdot P-N-$ [0, S, N] -
 D



Z その他のもの

- 57/28 ・ ・ 非環式または環式脂肪族基をもつもの [3]

A 混合物, 製剤, 使用方法



B

[リン酸アミド系]

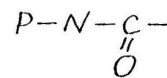
C

 $\cdot P-N=C, P-N-C=N$

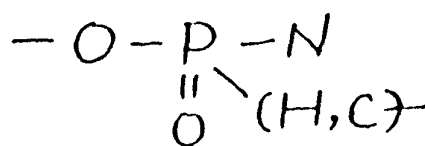
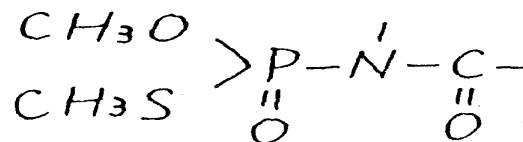
D

 $\cdot P-N-$ [0, S, N]

E



F



G

Z

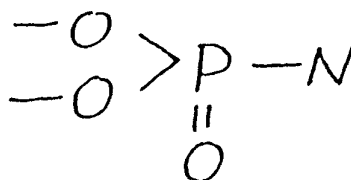
その他のもの

57/30

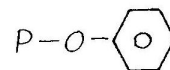
・ ・ 芳香族基をもつもの[3]

A

混合物, 製剤, 使用方法

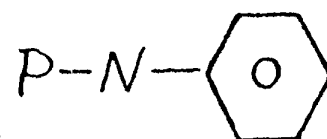
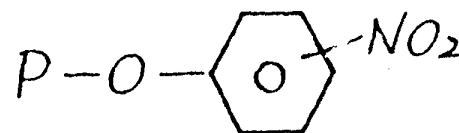


B



C

D

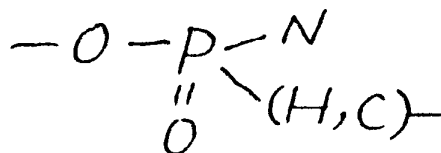


E

F

 $\cdot P-N-C_n-$ [0, S, N] - $[n \geq 0]$

G

 $\cdot \cdot P-N-$ [0, S, N] -

H

Z

その他のもの

57/32

・ ・ 複素環基をもつもの[3]

101

・ ・ ・ 環異項原子として酸素または硫黄原子

	子のみをもつもの
102	・ ・ ・ 環異項原子として 1 個の窒素原子のみをもつもの
103	・ ・ ・ 環異項原子として 2 個の窒素原子のみをもつもの
104	・ ・ ・ 環異項原子として 3 個以上の窒素原子のみをもつもの
105	・ ・ ・ 環異項原子として窒素原子および酸素または硫黄原子のみをもつもの
57/34	・ リン—ハロゲン結合をもつもの;ホスホニウム塩[3]
57/36	・ 環員としてリンをもつもの[3]
A	P—N 結合を含むもの
Z	その他のもの
59/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって元素または無機化合物を含むもの[3]
A	過酸化物
B	金属化合物 [59/02-26 の特定の個所に含まれないもの]
C	・ アルカリ, アルカリ土類金属化合物
D	N 含有化合物
Z	その他のもの
59/02	・ 硫黄;セレン;テルル;その化合物[3]
A	単体硫黄
Z	その他のもの
59/04	・ 二硫化炭素;一酸化炭素;二酸化炭素 [2006. 01]
59/06	・ アルミニウム;カルシウム;マグネシウム;その化合物[3]
A	石灰硫黄合剤
Z	その他のもの
59/08	・ アルカリ金属の塩化物;アルカリ土類金属の塩化物[3]
A	[次] [亜] 塩素酸 [塩], さらし粉
Z	その他のもの
59/10	・ ふっ化物[3]
59/12	・ よう素, 例. ヨードフォル;その化合物[3]
59/14	・ ほう素;その化合物[3]
59/16	・ 重金属;その化合物[3]
A	Ag
Z	その他のもの
59/18	・ ・ 水銀[3]
59/20	・ ・ 銅[3]
A	ボルドー液, 硫酸銅
Z	その他のもの
59/22	・ ・ ひ素[3]
59/24	・ シアンまたはその化合物, 例. シアン化水素, シアン酸, シアナミド, チオシアン酸 [3]
59/26	・ リン;その化合物[3]
61/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって組成不明な

	たは未決定の物質, 例. 作用によってのみ特定される物質, を含むもの[3]
A	機能, 作用, 特定成分 [←色]
B	鉱物
C	腐植泥
D	高分子 [←ワックス]
Z	その他のもの
61/02	・ 鉱物油;タール油;タール;それらの蒸留物, 抽出物または転換物 (これらの原料より分離された単一化合物を含むもの A01N27/00-A01N59/00) [3]
63/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 微生物, ウイルス, 微生物菌類または動物を含むもの, あるいは微生物, ウイルス, 微生物菌類または動物によって生産された, またはそれらから採取された物質, 例. 酵素または発酵生産物 (構造決定化合物を含むもの A01N27/00-A01N59/00;単細胞の藻類 A01N65/03) [2020. 01]

注

このメイングループ内では, ラストプレース優先ルールが適用されない, すなわち共通ルールが適用される

63/10	・ 動物;動物によって生産された, または動物から採取された物質[2020. 01]
63/12	・ ・ 線虫[2020. 01]
63/14	・ ・ 昆虫[2020. 01]
63/16	・ ・ クモ形類[2020. 01]
63/20	・ バクテリア;バクテリアによって生産された, またはバクテリアから採取された物質[2020. 01]
63/22	・ ・ バチルス[2020. 01]
63/23	・ ・ ・ バチルス・チューリンゲンシス [2020. 01]
63/25	・ ・ パエニバチルス[2020. 01]
63/27	・ ・ シュードモナス[2020. 01]
63/28	・ ・ ストレプトミセス[2020. 01]
63/30	・ 微生物菌類;微生物菌類によって生産された, または微生物菌類から採取された物質[2020. 01]
63/32	・ ・ 酵母[2020. 01]
63/34	・ ・ アスペルギルス[2020. 01]
63/36	・ ・ ペニシリウム[2020. 01]
63/38	・ ・ トリコデルマ[2020. 01]
63/40	・ ウイルス, 例. バクテリオファージ [2020. 01]
63/50	・ 分離された酵素;分離された蛋白質 (ペプチド A01N37/46) [2020. 01]
100	・ ・ 分離された酵素
63/60	・ 分離された核酸[2020. 01]
65/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 藻類, 地衣類, 蘚苔類, 多細胞菌類または植物に由来

	する物質, またはそれらの抽出物を含むもの (構造決定化合物を含むもの A01N27/00-A01N59/00) [3, 2009. 01]		コまたはチリペッパー [2009. 01]
A	精油, 草木からの抽出物	65/40	・ユリ綱 (単子葉植物) [2009. 01]
D	由来不明の木酢液	65/42	・アロエ科またはユリ科, 例. アロエ, シュロソウ, タマネギ, ニンニクまたはチャイブ [2009. 01]
F	植物油	65/44	・イネ科, 例. タケ, レモングラスまたはシトロネラグラス [2009. 01]
G	果汁, タンニン	65/46	・ビャクブ科, 例. ナベワリ [2009. 01]
H	きのこ [←担子菌類]	65/48	・ショウガ科, 例. ショウガまたはコウリョウキョウ [2009. 01]
J	植物細胞培養物		
Z	その他のもの		
65/03	・藻類 [2009. 01]		
65/04	・シダ植物門 (シダ類) [2009. 01]		
65/06	・球果植物門 (裸子植物門), 例. イトスギ [2009. 01]		
65/08	・モクレン綱 (双子葉植物) [2009. 01]		
65/10	・セリ科, 例. パセリ, キャラウェイ, ディール, ラビッジ, ウイキョウまたはスネークベッド [2009. 01]		
65/12	・キク科, 例. ヒナギク, 除虫菊, アーティチョーク, レタス, ヒマワリ, ヨモギ, タラゴン [2009. 01]		
65/14	・ニシキギ科 (ツルウメモドキ科), 例. オウシュウニシキギ, ツルナスまたはサンダーゴッドバイン [2009. 01]		
65/16	・ツツジ科, 例. シャクナゲ, アルブス, アセビ, クランベリー, ビルベリー [2009. 01]		
65/18	・トウダイグサ科, 例. ヒマ (トウゴマ) [2009. 01]		
65/20	・マメ科, 例. エンドウ, ヒラマメ, 大豆, クローバー, アカシア, アメリカサイカチ, デリスまたはナツフジ [2009. 01]		
65/22	・シソ科, 例. タイム, ローズマリー, タツナミソウ, ウツボグサ, ラベンダー, シソ, メグサハッカ, ペパーミントまたはスペアミント [2009. 01]		
65/24	・クスノキ科, 例. ゲッケイジュ, アボカド, サッサfras, シナモンまたはショウノウ [2009. 01]		
65/26	・センダン科, 例. マホガニー, ランサットまたはニーム [2009. 01]		
65/28	・フトモモ科 (ギンバイカ科), 例. ティーツリーまたはクローブ [2009. 01]		
65/30	・タデ科 (ソバ科), 例. レッドニーズまたはダイオウ [2009. 01]		
65/32	・キンポウゲ科, 例. スハマソウ、ヒドラスチス (ゴールデンシール) [2009. 01]		
65/34	・バラ科, 例. イチゴ, サンザシ, スモモ, サクラ, モモ, アンズまたはアーモンド [2009. 01]		
65/36	・ミカン科, 例. ライム, オレンジ, レモン, キハダまたはサンショウ [2009. 01]		
65/38	・ナス科, 例. イヌホウズキ, トマト, タバ		